

## 授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) こども家庭支援論		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者名 西本 佳子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年 後期		(必修) ・ 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援に対する支援の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、子育て家庭に対する支援の必要性と子ども家庭支援の現状と体制、課題について理解する。</li> <li>3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と方法を理解し、保育士として現場で実践する力を身につける。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>家庭支援の意義と役割を概説する。さらに今日の家庭生活を取り巻く社会状況を理解したうえで、子育て家庭の支援体制について、多様な支援展開と関係機関との連携の重要性とその方法を概説し、子育て家庭にあった支援・援助の方法を考察する。</p>					
各回のテーマ・テキスト					
1コマ目	家族と家庭				
2コマ目	家族機能の変化				
3コマ目	成長・発達する家族				
4コマ目	多様な家庭に生きる子どもと家族				
5コマ目	家庭支援の目的と対象				
6コマ目	現代家族の社会的状況と展開				
7コマ目	現代社会の子育てと支援の必要性				
8コマ目	保育者に求められる役割と課題				
9コマ目	保育所入所児とその家庭への支援				
10コマ目	保育所入所児の地域における家庭支援				
11コマ目	発達障がい児を持つ家族のストレス				
12コマ目	発達障がい児の家庭支援の実際と今後の課題				
13コマ目	父親の子育て支援				
14コマ目	多様な支援展開と関係機関との連携				
15コマ目	総括				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>橋本裕子他『家庭支援論』光生館</p> <p>必要に応じて随時、資料配布</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試 験：定期試験 70%</p> <p>平常点：出席態度・小テスト 30%</p>		

## 授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講義	授業担当者名 藤田美知枝 小河晶子 西本佳子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 2 単位	配当学年・時期 2年 後期	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1.生涯発達に関する心理学的な知識を習得し、初期経験の重要性について理解する。</p> <p>2.親子関係や家族関係等について、子どもとその家庭を包括的に捉えることができる視点について理解する。</p> <p>3.子どもの精神保健とその課題について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1.生涯発達に関する心理学的基礎的知識と人格形成の重要性について概観する。</p> <p>2.子どもを取り巻く社会環境の変化に伴う家庭環境の変化を概説する。さらに、親子関係・家族関係についての変化について概説する。</p> <p>3.多様な家庭の理解と課題について概観する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <p>保育の現場において、子どもを取り巻く多様な家庭環境を理解し、個々にあった適切な支援を行うことができる。</p>				
各回のテーマ・テキスト				
1コマ目	授業形態と評価の説明 家庭とは			
2コマ目	生涯発達とは			
3コマ目	乳幼児期から学童期前期の発達			
4コマ目	学童期から生人期にかけての発達			
5コマ目	成人期・老年期における発達			
6コマ目	家族・家庭の意義と機能			
7コマ目	親子関係・家族関係の理解			
8コマ目	親が親になること			
9コマ目	子育て取り巻く社会環境			
10コマ目	子育てを取り巻く家庭環境			
11コマ目	多様な家庭とその理解			
12コマ目	特別な配慮を要する家庭			
13コマ目	感覚統合療法 分析			
14コマ目	感覚統合法 VTR 分析 指導計画例 触覚過敏 指導計画立案			
15コマ目	子どもの精神保健とその課題			
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じてプリント配布 参考文献は 講義中に随時紹介			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準などを%で記入) 試験 70%、小テスト 20%、 提出物等 10%	

## 授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) 保育の計画と評価		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者名 高橋 弘美
授業の回数 8回×2	時間数 (単位数) 時間 ( 単位)	配当学年・時期 2年 (前期) (後期)	(必修) ・ 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の心身の成長、発達を目指した保育、教育を行うために、教育課程に基づいた保育計画に関する基本的な事項について学び、理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義とともに、保育現場の参観により、より具体的に指導計画に基づいて保育の分析を行いながら、保育計画の作成について学ぶ。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期、短期の指導計画についての理解を深め、自ら指導案を作成し、反省、省察を行い保育の評価が行えるようになる。</li> <li>・乳幼児期からの発達と学びの連続性を理解し、子どもが連続性をもって発達し学び続けていることを認識し生きる力の基礎を育む、という視点をもとに保育計画が立てられるようになる。</li> </ul>			
各回のテーマ・テキスト			
1コマ目	保育の目的と目標・計画と評価の意義    オリエンテーション		
2コマ目	保育におけるカリキュラムとは		
3コマ目	子どもの理解に基づく計画とは    PDCA サイクル		
4コマ目	全体的な計画と指導計画		
5コマ目	長期的な指導計画		
6コマ目	短期的な指導計画		
7コマ目	保育指導案作成		
8コマ目	保育指導案    振り返りと再構成		
1コマ目	指導計画作成上の留意事項 (0・1・2歳児)		
2コマ目	指導計画作成上の留意事項 (3歳以上児)		
3コマ目	指導計画に基づく保育の展開		
4コマ目	保育の記録と省察		
5コマ目	保育の評価と改善		
6コマ目	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録		
7コマ目	幼児期から児童期への接続		
8コマ目	小学校へつなげるために		
<p>[使用テキスト・参考]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育課程・保育の計画と評価」 萌文書林 使用</li> <li>・必要に応じて、資料を配布</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題到達・定期試験・・・60%</li> <li>・講義への意欲、取り組み姿勢・・・20%</li> <li>・提出物 (レポート等)・・・20%</li> </ul>	

## 授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) 保育内容「環境」		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者名 高橋 弘美	
授業の回数 8回×2	時間数 (単位数) 時間 ( 単位)	配当学年・時期 2年 前期・後期		必修・選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳幼児が「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指し、発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「環境を通して行う保育」の意味について理解するとともに、領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点について学ぶ。また、実際の遊び体験を通して、領域「環境」における保育計画の作成についての実践力を身に付ける。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解する。</li> <li>・ 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</li> </ul>					
各回のテーマ・テキスト					
1コマ目	保育内容「環境」のねらい 自分自身の「環境」から考える				
2コマ目	幼児教育の基本				
3コマ目	乳幼児の育ちと「環境」				
4コマ目	保育室の環境				
5コマ目	乳幼児期における植物との関わり				
6コマ目	乳幼児期における植物との関わり				
7コマ目	乳幼児期における生き物との関わり				
8コマ目	乳幼児期における生き物との関わり				
1コマ目	乳幼児期における物や道具との関わり				
2コマ目	乳幼児期における数量や図形との関わり				
3コマ目	乳幼児期における社会、文化との関わり (社会的環境)				
4コマ目	幼児期における思考力の芽生え				
5コマ目	子どもを守る安全な環境 遊びとリスク				
6コマ目	小学校以降の教育内容とのつながり				
7コマ目	乳幼児の環境への関りを支える保育者の役割				
8コマ目	授業のまとめ、振り返り				
<p>[使用テキスト・参考]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「領域 環境」 萌文書林</li> <li>・ 保育所保育指針、保育所保育指針解説</li> </ul>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題到達・定期試験・・・60%</li> <li>・ 講義への意欲、取り組み姿勢・・・40%</li> </ul>		

## 授 業 概 要 (令和 6 年度)

授業のタイトル (科目名) 保育内容演習・人間関係		授業の種類 (演習)		授業担当者名 西本佳子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年前期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 子どもの心身の発達や子どもが取り巻かれている環境等と保育所保育指針に示されている保育内容「人間関係」を理解する。</p> <p>2. 子どもの発達に応じた人間関係の環境構成及び具体的展開を行うことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助にかかわる知識及び技術について概説する。</p> <p>2. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具等、素材教材等の特性について概説する。</p> <p>3. 子どもの遊んでいる DVD を観て、保育内容「人間関係」を中心に子どもの考察をグループで行う。</p>					
各回のテーマ・テキスト					
1 コマ目	人間とは				
2 コマ目	人間と人間関係				
3 コマ目	社会環境の変化と子ども				
4 コマ目	領域人間関係				
5 コマ目	胎児期と愛着				
6 コマ目	3 歳児未満の発達と人間関係				
7 コマ目	3 歳児以上の人間関係の発達				
8 コマ目	幼児期に育てたい力				
9 コマ目	自律と自立				
10 コマ目	保育の中で育てる自立の力				
11 コマ目	保育の中で培われる力				
12 コマ目	遊びの発達				
13 コマ目	けんかの意義				
14 コマ目	特別な配慮を必要とする保育と連携				
15 コマ目	保育者と人間関係 まとめ				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>講義中に紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準などを%で記入)</p> <p>試験 70%、小テスト 20%、提出物等 10%</p>		

## 授 業 概 要 (令和6年度)

授業のタイトル (科目名) 言語表現法		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者名 高橋 弘美	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 時間 ( 単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修 ・ 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育現場における言語表現の重要性に関する知識を習得し、子どもの自己表現の読み取りについて学ぶ。言語表現に係る様々な教材を知り、その意味や意義を理解し、活用できるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>言語表現に関する知識やスキルについて示し、保育者に求められる資質について言語表現の側面から整理、解説し、保育の現場で活用する児童文化財 (絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート等) の特徴を知り、保育者が活用できるよう、演習を交えながら授業を進める。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語表現の重要性、豊かさを知り、多様な言語表現への興味関心を深める。</li> <li>・ 保育現場で使用する様々な教材を学び、活用する力を身に付ける。</li> </ul>					
各回のテーマ・テキスト					
1コマ目	言語表現法とは オリエンテーション 言葉と表現力を育む児童文化財について 「言語表現」 時候の挨拶・川柳・俳句				
2コマ目	領域「言葉」のねらいから 子どもの言葉の発達・思いを言葉で表現することについて				
3コマ目	保育者の役割と援助について				
4コマ目	児童文化財の教材研究 (おはなし)				
5コマ目	児童文化財の教材研究 (絵本)				
6コマ目	児童文化財の教材研究 (紙芝居 ペープサート 人形劇)				
7コマ目	言葉で遊ぶ・イメージすることと言語表現				
8コマ目	振り返り				
9コマ目					
10コマ目					
11コマ目					
12コマ目					
13コマ目					
14コマ目					
15コマ目					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「保育者のための言語表現の技術」 萌文書林 使用</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験・課題到達 . . . 60%</li> <li>・ 講義への意欲、姿勢、演習 . . . 40%</li> </ul>		

## 授 業 概 要 (令和 6 年度)

授業のタイトル (科目名) 子どもの健康と安全		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者名 藤田美知枝	
授業の回数 8 回		時間数 (単位数) 時間 ( 1 単位)		配当学年・時期 2年 前期	
必修 ・ 選択					
<p>[授業の目的・ねらい] 子どものいのちを守り、安全・安心で健康的な日常生活を支援する保育所保育の実践に必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保健的観点に基づく保育の環境整備や保育における保健的対応、心身の健康と安全管理の実施体制等について演習を中心に行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健的観点をふまえた保育の環境整備および援助について説明することができる。</li> <li>2. 保育における健康安全管理の実際について説明することができる。</li> <li>3. こどもの体調不良や緊急を要する状況への適切な対応について説明することができる。</li> <li>4. 感染症の集団発生の予防と感染症発生時と罹患後の対応について説明することができる。</li> <li>5. 保育における保健的対応について説明することができる。</li> <li>6. 健康安全管理の実施体制について説明することができる。</li> </ol>					
各回のテーマ・テキスト					
1コマ目	保健的観点をふまえた保育環境および援助				
2コマ目	保育における健康および安全の管理				
3コマ目	子どもの体調不良等に対する適切な対応				
4コマ目	救命手当および救急蘇生法				
5コマ目	感染症対策				
6コマ目	保育における保健的対応				
7コマ目	健康安全管理の実施体制				
8コマ目	授業総括 45 分・確認試験 45 分				
9コマ目					
10コマ目					
11コマ目					
12コマ目					
13コマ目					
14コマ目					
15コマ目					
<p>[使用テキスト・参考文献] 『子どもの健康と安全』 遠藤郁夫/三宅捷太 (編) 学建書院</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中の確認テスト 30%</li> <li>2) 課題提出 50%</li> <li>3) 授業参加度 20%</li> </ol>		

## 授 業 概 要 (令和 6 年度)

授業のタイトル (科目名) 子育て支援		授業の種類 演習		授業担当者名 西本佳子	
授業の回数 8 回		時間数 (単位数) 15 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 年 後期	
必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 保育士の専門性を背景とした保護者に対する相談、援助、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の展開について理解する。</p> <p>2. 保育士による多様な場面における支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 子育て支援の必要性について概説する。</p> <p>2. 動画により、こども理解のための具体的方法、発達と環境に基づく保育士の援助や態度について概説し、考察する。</p> <p>3. 保護者からの相談場面をロールプレイし、その考察をする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <p>乳幼児期の子どもの発達と環境に基づく保育士の援助について理解し発達・発育に応じた援助を保育の場で行うことができる。</p>					
各回のテーマ・テキスト					
1コマ目	オリエンテーション 授業評価説明 保護者支援とは				
2コマ目	保護者との相互理解				
3コマ目	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの支援				
4コマ目	保育士の子育て支援の展開 状況把握・計画・実践				
5コマ目	保育士の子育て支援の展開 評価・カンファレンス				
6コマ目	職員間の連携・協働				
7コマ目	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援				
8コマ目	障がいのある子ども及びその家庭に対する支援				
9コマ目					
10コマ目					
11コマ目					
12コマ目					
13コマ目					
14コマ目					
15コマ目					
<p>[使用テキスト]</p> <p>講義時に、随時資料を配布。</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準などを%で記入)</p> <p>本試験 70% 小テスト・発表 30%</p>		